評価関数の利用方法

評価関数はモデルの性能を測るために使われます.次のコードのように,モデルをコンパイルする際に metrics パラメータとして評価関数を渡して指定します.

評価関数は<mark>損失関数</mark>とよく似ていますが、評価結果の値が訓練に直接使われることはありません。

渡す metrics パラメータには既存の評価関数の名前を引数に与えるか, 自分で作った評価 関数を渡す事ができます (カスタマイズを参照してください).

引数

- y_true: 真のラベル. Theano/TensorFlowのテンソル
- y_pred: 予測値. y trueと同じshapeのTheano/TensorFlowのテンソル

戻り値

全データ点の平均値を表すスカラ.

利用可能な評価関数

binary_accuracy

```
binary_accuracy(y_true, y_pred)
```

categorical_accuracy

```
categorical_accuracy(y_true, y_pred)
```

sparse_categorical_accuracy

```
sparse_categorical_accuracy(y_true, y_pred)
```

top_k_categorical_accuracy

```
top_k_categorical_accuracy(y_true, y_pred, k=5)
```

カスタマイズ

(y_true, y_pred) を引数とし、各データ点に対してスカラを返す関数を評価関数として利用できます:

- y_true: 正解ラベル. Theano/TensorFlow テンソル
- y_pred: 予測. y_trueと同じ形状のTheano/TensorFlow テンソル

https://keras.io/ja/metrics/